

超高齢社会における新しい歯科医療提供体制構築に向けての現状と課題

ほり けんろう
堀 憲郎

公益社団法人 日本歯科医師会 会長



我が国では、1922年の健康保険法の制定から公的医療保険制度の歴史が始まり、これは先人の努力で世界に冠たる制度に成熟し、その結果我が国は世界一の長寿国となりました。一方、次世代に引き継ぐべきこの掛け替えのない財産が、近年の急激な少子高齢化と国の財政状況から危機に直面し、国の根幹であるべき社会保障の行く末に影を落としていることはご承知の通りです。

特に経済的に厳しい状況にあった歯科界は、いかに危機的状況を乗り越えて、時代の要求に応える歯科医療提供体制を構築するか、10年以上に亘り議論を重ねてきました。

長寿社会においては単に長く生きることを目標にするのではなく、「食べる」「話す」「笑う」という生活の基本的機能を人生の最後まで全うすることを目指すべきであり、そこに超高齢社会における歯科医療の、新しい責任と役割を見いだすという、明確な方向性と目標を得るに至っています。そしてこの目標達成に向けて、特に高齢者や要介護者への歯科医療、口腔健康管理の有用性について多くのエビデンスを示しつつ発信を続けて来ました。結果として、近年漸く歯科医療に対する国民の理解が進み、期待も寄せられつつありますが、目指す目標の達成に向けては、まだまだ多くの課題も存在します。

その課題のひとつには、国として目指している地域重視、地域完結の医療政策の中に、歯科医療の果たす新しい役割を書き込んで実行することであり、そのために求められるものが、本日のテーマである「2025年の地域包括ケアシステム構築に向けた連携」という課題に他なりません。特に在宅医療の推進における医歯薬を含む多職種連携の推進は喫緊の課題であり、日本歯科医師会としての最重要政策の一つと位置付けています。更にそれらの地域連携の中では、かかりつけ歯科医として果たす機能が重要と考え、その議論も深めているところです。

シンポジウムでは、歯科界としての取組みの経緯と現時点での課題をお示しし、議論させて頂ければ幸いです。

.....

略歴

1979年	日本歯科大学 卒業	2016年	日本歯科医師会会長 就任	現在に至る
1997年	新潟県歯科医師会理事 就任			
2000年	新潟県歯科医師会常務理事 就任			
2005年	新潟県歯科医師会専務理事 就任			
2006年	日本歯科医師会理事 就任			
2011年	日本歯科医師会常務理事 就任			
	同 中央社会保険医療協議会委員 就任			
	同 社会保障審議会医療保険部会委員 就任			